



Haebaru

# 南風原の文化財

## 民俗文化財・その他文化財

- 1 南風原の籠屋
- 2 ナナカンジャラー石
- 3 南風原の村獅子
- 4 村屋跡(地頭代火の神)
- 5 親田家刻紋石柱
- 6 報恩社
- 7 南風原ノ口殿内
- 8 浜崎の寺
- 9 クトジ御嶽
- 10 按司墓

## 遺跡

- 1 勝連城跡
- 2 勝連城下北貝塚
- 3 勝連城下南貝塚
- 4 南風原古島遺跡
- 5 南風原潮辺名遺跡

## 井泉

- 1 アガリガー
- 2 マンナカガー
- 3 イリーガー
- 4 アシビナーのカー
- 5 浜川ガー
- 6 マーカーガー
- 7 ヘンザガー
- 8 ビーンガー
- 9 門口のカー
- 10 ヌールガー
- 11 カンジャガー(仲間)
- 12 ミートゥガー
- 13 ウタミシガー
- 14 アコーシガー
- 15 タンハラガー(田原)
- 16 ドゥガー

●印は民俗文化財・その他の文化財  
●印は遺跡  
●印は井泉



## 9 クトジ御嶽

クトジ御嶽は、琉球国由来記に勝連間切の拝所として、「コト瀨嶽神名マネツカノ御イベ」と記録されています。旅果報、航海安全を願う拝所です。  
昔話では、中国から来た女性が、この御嶽の洞穴で子供を出産したと伝えられています。  
また、中国から品物を運んできた時は、まずはこの御嶽に置いてからグスクに運んだとも伝えられています。



## 3 南風原の村獅子

サンゴ石灰岩を加工して作った素朴な獅子像です。村のフーチゲシ(邪気払い)として、南風原村が勝連城跡南側の元島原より移動した時(1726年)、村の境界として東西南北の4角に置かれたと伝えられています。  
今では北側と西側が残っているだけですが、集落の研究や民俗資料として貴重なものです。



勝連間切南風原村文書(県指定/有形文化財・古文書)

琉球王国は、明治12年(1879年)の琉球処分によって沖縄県となりました。しかし、近代化への諸改革は本土よりはるかに遅れ、土地整理が完了したのは明治36年(1903年)のことです。それまでは王府時代の土地制度が存続し、琉球独特の地割制が実施されていました。  
宇南風原には明治20~30年代に作成された地割関係の文書(冊子68冊、地籍図29葉)が保存されています。なかでも明治29年(1896年)の地割関係の文書は従来の土地制度関係史料には見いだせない新史料が含まれており、地割が農村において実施された具体的な過程を知る貴重なもので、近世、近代の沖縄の農村経済制度を知る重要な史料です。

## 1 勝連城跡



## 8 浜崎の寺

浜崎の寺は、区民の健康、子宝に恵まれることの祈願所です。また、普天間権現とのつながりがあるため、ここから普天間権現へのお通しもできます。  
内部には、石を置きビジュアルにしており、向かって右側は女シー(イナグシー)、左側は男シー(イキガシー)で、南風原ノ口殿内とのつながりがあるといわれています。なお、拝むときは、お香に火をつけず右側女シーを先に拝むことといわれています。



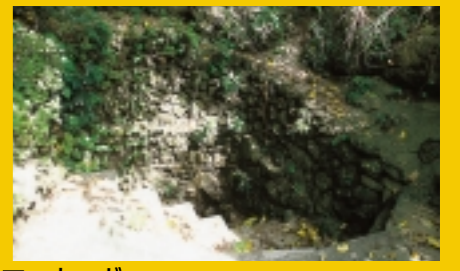
## 2 マンナカガー

マンナカガーは、集落の中ほどに位置しています。現集落には、その他にアガリガー、イリーガー、アシビナーのカー等があります。この四基は、築造技術や形態が良く似ており、村落移動した1726年頃の同時期に築造されたものと考えられます。



## 5 浜川ガー

浜川ガーは、絶世の美女真鍋樽(マナングルー)の頭髪を洗髪したことで、有名です。真鍋樽は、勝連グスク7代目の城主浜川按司の娘で、彼女の黒髪は身長1.5倍もあり、竿にかけて洗ったという伝説があります。  
南風原村が、元島原にあった頃のウブガーでした。現在でも、毎年旧正月元旦に南風原及び近隣集落の門中によって、「カーウビー拝み」が行われています。



## 6 マーカーガー

マーカーガーは、元島原の大岩の下にある降りカー式の井泉です。字の繁栄を願う拝所の一つで、元島時代のウブガーでした。神拝み時、このカーで手足を清めて勝連城内に登ったと伝えられています。

## 5 親田家刻紋石柱

刻紋石柱は、親田家の庭の隣家境に立てられている、石灰岩製の石柱です。由来や意味は分かっていませんが、梵字や漢字、絵文字で文字が刻まれています。



## 6 報恩社

南風原村を移動する際、貢献した大恩人、前浜三良(カッチンパーマー)を称えるための社です。毎年、旧正月元旦に初御願を行います。

かっちゃん 勝連パーマー

勝連パーマーの代表的な頓智話「龍潭工事の昼の月」でも知られているように機知に富んだ人物として、数多くの逸話が残っています。勝連間切平安名に生まれた前浜三良は浜掟(はまうち)という役職にあったことから、勝連パーマー(カッチンパーマー)と呼ばれていました。

当時、現在の南風原村を、不便な勝連南方断崖の中腹から移動させたり、養魚場を設けて養殖の先駆者の役割を果たしたと伝えられています。伝説的な人物として琉球中に名を轟かせました。

## 4 南風原古島遺跡

勝連城跡の南東側の斜面地域に大きく展開するグスク時代の集落遺跡です。1986年に大規模な宅地整備が計画され、記録保存の発掘調査が実施されました。その結果、勝連グスクの麓に展開する集落の石壁遺構が発見され注目されています。また、城から分配された陶磁器類が多数出土しています。

